

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103169
法人名	有限会社 幸心
事業所名	グループホーム つばさ
所在地	松山市 姫原3丁目3-7
自己評価作成日	H24 9/3

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>遠方に居る家族にも利用者の生活をブログやつばさ新聞でホームの様子を伝えている 隔月でスタッフが順番で勉強会を行いレベルアップしている 今年よりホームで新人研修資料を見直しリーダーと一緒にホームのことや認知症について勉強する時間を持っている 食事は旬の物を取り入れ季節感のある献立である</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年10月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●職員の入れ替わりも多々あり、新人職員が認知症をより理解できるように資料を新たに作成して、新人研修マニュアルを見直された。又、新たにユニットごとに、「サブリーダー」を配置して、新人職員にケアや業務を指導されている。サブリーダーは、ケアや業務をわかりやすく伝えることにより、自分自身のスキルアップにもつながっているようだ。職員の休憩室で煙草を吸えるよう、換気設備も整備されている。誕生日休暇や旅行が計画できるよう、最大5連休取れるようにシフトを配慮されたり、勤務の希望も十分に反映して、働きやすい職場作りに努力をされている。</p> <p>●朝6時に起きて、お一人で事業所隣接の公園に出かけてウォーキングすることが日課になっている方があり、職員は、窓から利用者の様子を確認しながら見守っておられる。ご家族が週に数回、市外から来られ、近くの喫茶店に歩いてお茶を飲みに行かれている。近くのスーパーに移動図書館が来る際には、歩いて本を借りに行かれている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### I. 理念に基づく運営

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム つばさ

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 上田 八千代

評価完了日 H24 年 9 月 3 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) セカンドリビングや介護記録に理念を表示し、常にスタッフで共有できるようにしている	
			(外部評価) 事業所開設時から、「焦らず」「怒らず」「諦めず」と、事業所の理念を作成しておられ、パンフレットにも示し、又、新人職員研修時にも理念を伝えておられる。代表者や管理者は、利用者主体の生活を支援するために、「利用者を見守る」ことを大切にされた支援に取り組めるよう、職員に話しておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 毎月1週目に傾聴ボランティアの方に来て頂いたり、児童クラブや保育園などと交流し、公園へ行く子供さんに声をかけたりしている また、地方祭や近隣地域の祭にも参加している	
			(外部評価) 運営推進会議に参加してくださっている民生委員の方を通じて、地域との交流が広がってきており、現在は、利用者2名が地域の「老人会」に加入されて、地域の高齢者と一緒に日帰り旅行等にも行かれている。事業所前にある畑の方とは、顔見知りになっており、時々、野菜を届けてくださる。近々、町内運動会にも参加する予定で、車いすを使用する利用者も職員が押して競技に参加することになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で認知症のセミナーや対応の仕方について話し合ったりしている	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議などで家族会も開催し、意見・報告などして意見を交わしている	
			(外部評価)	
			時には、事業所新聞に、会議日時を載せ、代表者は、新聞を地域の方や他事業所に直接手渡しして、会議への参加を働きかけておられる。会議と併せて、お花見や「つばさ祭り」、観月祭等を行い、ご家族が参加しやすいよう取組みられたり、又、複数の利用者の重度化や看取りを支援している時期には、事業所とご家族の共通の話題でもある、「介護ストレス」について議題に挙げて、お互いの気持ちを「分かち合う」ことができるよう取組みられた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	
			イベントや運営推進会議などに市の介護保険課・社協・包括支援センターの方々にも参加してもらい、実情を見てもらって意見を交わしている	
			(外部評価)	
			事業所新聞は、市に送付されたり、病院や地域包括支援センターに持参して事業所の活動や利用者の様子等を見ていただいている。運営推進会議時、市の担当者の方はボランティア等の紹介をしてくださっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			特別な事情がない限り拘束は行わず、身体拘束0を維持している	
			(外部評価)	
			事業所では、「利用者のできることを奪わない」ケアを目指しておられ、利用者の行動を止めることのないよう気を付けておられる。ベッドからの転落が心配される利用者の方には、床に布団を敷いて、利用者が思うように這って動けるようにされている。町内会長は、「利用者が行方不明になったら町内放送しますよ」と言ってくださっている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	虐待についての勉強会を行いスタッフの理解を深める努力をしている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	成年後見制度についての勉強会を行いスタッフ全員で話し合う機会をもうけ意見交換している	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	契約時にはもちろんの事、疑問があればすぐに家族とそのつど話し合っている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	意見箱を設置し、匿名の意見も拾えるようにしている	
			(外部評価)	職員の顔写真と名前をユニット入口に掲示して、ご家族にも職員の名前が分かるようにされている。事業所新聞は、事業所の活動、利用者の様子や表情がよくわかる写真やコメントを載せて、ユニットごとに毎月作成されており、ご家族はもちろん、要望があれば、親戚の方等にも送付されている。ご家族は、新聞を見て行事に参加して下さったり、新聞を通じて親族同士でも話が弾むようだ。入居して利用者の笑顔が多くなったことや状態が改善したこと等、事業所を利用している感想を話して下さるご家族もいる。毎日来訪されるご家族もあり、利用者ご本人だけでなく、他の利用者の方達ともお話しして過ごされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングや勉強会などスタッフ全員参加して、運営・スタッフ一丸となり意見交換している	現在、職員の定着に向けて取り組んでおられる。今後さらに、代表者や管理者は、事業所が目指していること等を日常的に職員に語り、牽引していかれてほしい。事業所では、職員の「気付く力」を求めておられる。今後さらに、職員から建設的な意見や提案等を引き出して、職員の喜びや、やりがいある取り組みにつなげていかれてほしい。
			(外部評価) 職員の入れ替わりも多々あり、新人職員が認知症をより理解できるように資料を新たに作成して、新人研修マニュアルを見直された。又、新たにユニットごとに、「サブリーダー」を配置して、新人職員にケアや業務を指導されている。サブリーダーは、ケアや業務をわかりやすく伝えることにより、自分自身のスキルアップにもつながっているようだ。職員の休憩室で煙草を吸えるよう、換気設備も整備されている。誕生日休暇や旅行が計画できるよう、最大5連休取れるようにシフトを配慮されたり、勤務の希望も十分に反映して、「働きやすい職場作り」に努力をされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) キャリアパス制度を導入している	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) キャリアパス制度を導入し、職員1人1人の目標をはっきりさせている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 勉強会や夏祭りなどに参加させてもらい意見交換している	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所する前より経営者と管理者が家族を交えて話し合い情報をとっているのでケアに活かされている	



### 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス開始直後は家族にこまめな面会をお願いし、その面会時に普段の様子変化を伝え、これからの方向性を話すように努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者本位のサービスが行えるように、上記の話し合いをする時など本人・家族に相談しサービス提供している	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 調理や掃除など無理のない範囲で利用者と一緒に作業している	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホームでイベントをする時など、家族と一緒に過ごせる時間を提供している	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人や馴染みの関係の方が訪ねて来ることもあり、本人が希望する場所にはできる限り時間を作って行くようにしている (外部評価) 利用者のご自宅の近所の方が、コスモスの花を持って来てくださり、居間に生けておられた。利用者が馴染みのある演劇を見に行かれることもある。居間のテーブル席では、ご自分が体験された戦争を記した本を読んでおられる利用者がおられた。職員が道後温泉にお連れして、帰りは公共機関を利用して戻って来られる方もいる。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を見ながら席を決め上手くコミュニケーションが取れるようスタッフが仲に入りレクリエーションを行っている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も時々、訪ねて来ることもあり必要があれば相談にものっている	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者1人1人について定期的にスタッフ全員で話し合いを行い意向を汲みとろうとしている  (外部評価) 利用者ご本人の暮らしの希望については、入居時にご家族に聞き取っておられる。センター方式のアセスメント表を用いて利用者の意向について情報収集されており、半年から1年ごとに情報を更新されている。利用者から外出や活動について希望が出にくいようなユニットもあるようだ。	事業所では、今後、利用者との相性等も踏まえて、個々の担当職員を配置し、利用者情報の収集に取り組みたいと考えておられる。事業所理念にも沿い、個々の暮らし方の希望等を探るツールを工夫して、職員は、いろいろな場面から利用者への情報収集に力を入れて取り組まれてほしい。得た情報を介護計画に採り入れて、個々の主体的な暮らしをチームで支えていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用前調査時に経営者と管理者が関わり調査し他のスタッフにも伝えている 時々、調査書式を見直し利用者の状態が詳しくわかるようにしている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 何か変化やできそうな事柄があれば、介護記録や連絡ノートにその都度記入しスタッフ全員で情報を共有するようにしている	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ケアプラン作成時には職員全員で話し合い利用者本位のケアが行えるように意見交換を行っている</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族の来訪時に、ケアや暮らしへの要望を聞き取っておられる。これまでは利用者の「困っていること」に焦点を当てた介護計画を作成しておられたが、現在は、利用者が活動的に生活できるよう、「望んでいること」に焦点を当てた計画の作成に取り組み始めておられる。ミーティング時に職員で意見や気付き等の情報を持ち寄って、その中からご本人が「望んでいること」を探り、計画を立てておられる。短期は2ヶ月ごと、長期は半年ごとに見直しされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護記録・チェック表(食事・血圧・検温・排泄・体重・入浴)・連絡ノートに記入しスタッフが把握している 計画作成担当者は日々あったことを支援経過に残し介護計画の見直しに活かしている</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人・家族希望の病院付き添いや入所前から通っている美容室へ同行などニーズがあれば対応している</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>近所の整骨まで歩いて行って日課となっていたり、散歩で近隣の施設を休憩がてら回ってきたり、児童クラブがボランティアに来てくれたりしている</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 入所前に話し合いを行い希望があればかかりつけ医への受診も行っている</p> <p>(外部評価) 協力医が、24時間、365日いつでも往診して下さることが利用者、ご家族、職員の安心につながっている。往診の日時は、ご家族に事前に伝えておられ、直接医師に聞きたいことがあるようなご家族は、その日時に来られている。又、事業所では、利用者の入・退院、体調不良時等には、ご家族が医師から直接説明が聞けるよう連絡をされている。調査訪問時には、訪問マッサージ師が来てくださっていた。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 訪問看護用連絡ノートを作り往診結果や日々の状態を記入し情報を共有している</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 職員がお見舞いに行った時や、家族より情報を得て早期退院に向けての話し合い、入退院時に文書で情報交換している</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入所前の段階で終末期の話し合いをしている状態が変わった時にはその都度話し合いをして出来る限り本人・家族の要望にこたえられるようにしている</p> <p>(外部評価) 利用者やご家族は、「最期まで事業所で」と希望されている方がほとんどであり、事業所でも希望に沿った支援ができるよう取り組まれている。主治医は、ご家族に直接、亡くなるまでのプロセスを話して下さっており、事業所でも看取りについての冊子をお渡しして、利用者の現在の状態と一緒に確認して、ご家族と今後のことを話し合っておられる。職員は、年1回、看取りの勉強会を継続して行っておられ、経験した職員が心構え等を話されている。利用者の終末期に、日頃はあまり親しくしていなかったような利用者の方も、居室を何度も訪ねて行かれる様子もみられ、亡くなった折には利用者も手を合わせてお別れされた。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) スタッフ全員が救急救命講習を受講しており初期対応について学び、介護記録に緊急対応マニュアルをファイルしいつでも見れるようにしている AEDを設置し近隣にも知らせている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防に協力して頂き避難訓練を行っている 経営者が地元な事もあり災害協力体制ができています	
			(外部評価) 喫煙する利用者の方がおられ、居間から少し離れたソファが喫煙場所となっていて、職員は、利用者のたばこやライターを管理しておられる。又、燃えにくい素材のカーペットを敷いておられる。居室に仏壇を持って来られている利用者は、ライターを使ってご自分で火を点け、線香を立てておられる。職員は、利用者の持っている力を見極めて、現在は見守るようにされている。11月には消防署の協力のもと、夜間の火災を想定した避難訓練を実施されており、避難の手順を確認して実際に訓練が行われた。又、水消火器を使って実際に消火体験をされた。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 本人の分かりやすい言葉をつかうようにしている 利用者の訴えには耳を傾け否定しないようにしている	
			(外部評価) 事業所独自の「個人生活点検表」を作り、職員の身だしなみやケアで気を付けること等の項目を、ご自身でチェックされている。それをもとに代表者や管理者が職員個々と面談して、自己チェックと他者から見た印象をすり合わせる機会にされている。調査訪問時、利用者は自主的によく活動されており、掃除機で廊下を掃除されていたり、エプロンを着けて職員と一緒に台所に立ち、食事を作っている方もみられた。職員は、「利用者とともに支え合う」ことに心がけ、利用者も「できることは行う」という気持ちで生活しておられる様子がうかがえた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) できるだけ自己決定できるような声かけをするようにしている 上手く自分の思いを伝えられない利用者は表情などで判断している	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1人1人の性格・生活パターンを職員が把握できるようミーティング等で話し合い利用者のペースを出来る限り優先している	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容室がある利用者はそこで好みの髪形にしたり、スタッフ同行で服を買いに行き自分で選んでいる	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理の得意な利用者と一緒に食事の準備をしている 誕生日会・敬老の日等イベントの時は利用者の食べたいものを聞いてメニューにとりいれている	
			(外部評価) 週に2回買い物に出かけ、又、食材を配達してもらおう等して事業所で食事を作っておられる。肉がお嫌いな方には、代替えに「卵焼き焼こうか」と声をかけられたり、好き嫌いの多い方は、ご自分のふりかけを居室に準備されている。料理の上手な利用者が、エプロンを着けて職員と一緒に台所に立ち、料理を作り味付け等もしてくださっている。土用の丑の日に、うなぎを食べたり、夏にはスイカ割りを楽しんでいる。又、事業所の夏祭り時には、かき氷やおでん・カレー等を利用者と一緒に作り、テントの下でご家族や地域の方達と一緒に楽しまれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1人1人にその時のメニューに合わせて食べやすい形態にしている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者の状態に合わせた口腔ケア・1部介助をしている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ミーティング等で話し合い1人1人の排泄パターンをスタッフ全員把握している 自尊心に配慮したさりげない声かけをしている</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者個々の排泄のパターンに合わせてトイレで排泄できるよう、声かけや誘導して支援されている。汚れたパットや衣服の交換をご自分が行う利用者の方には、居室にパット、衣服用それぞれのフタ付きバケツを置いておられた。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>10時、15時と水分補給を促している 食事は野菜類を多めに使用している</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>1人1人の好みの湯温・時間帯を把握して入浴の声かけをしている</p> <p>(外部評価)</p> <p>午後からが入浴する時間になっており、一番風呂を好まれる方には希望に沿うように支援されている。又、一人で入る方もあり、安全に入浴できるよう、そっと見守り等をされている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>天候の良い日は布団を干したり、こまめな換気・シーツ交換等している</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者全員の使用している薬の種類・副作用・用法・用量をスタッフ全員各自でノートに記入し把握している変更があったらその都度記入している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 手伝う事が楽しみな利用者には一緒に食事や洗濯物干しなど、外出が楽しみな利用者には一緒に買い物に出かけたりしている	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者1人1人出かけた場所が違うので時間をみつけ出来るだけ希望に添えるように支援している	
			(外部評価) 朝6時に起きて、お一人で事業所隣接の公園に出かけてウォーキングすることが日課になっている方があり、職員は窓から利用者の様子を確認しながら見守っておられる。ご家族が週に数回、市外から来られ、近くの喫茶店に歩いてお茶を飲みに行かれています。近くのスーパーに移動図書館が来る際には、歩いて本を借りに行かれています。季節もよいことから、近々、みなで「いちぢく狩り」に出かけることを予定されていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的にホームで管理しているが、本人の訴えがある人は家族と相談して少額だが自分で管理し使えるように支援している	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は自由に使えるようにリビングに設置し、携帯を持っている利用者も数人いる	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) トイレや浴室は分かりやすく表札をしている ユニット入口には季節を感じられるような掲示板にしている リビングから見える庭には季節の花や野菜を植えている ゴーヤのグリーンカーテンで季節感をだしている</p> <p>(外部評価) 玄関にはAED(自動体外式除細動器)を整備されている。又、ご家族や職員が興味のある本を借りられるように、介護等の本を揃えた文庫を作っておられた。玄関を入ったところには、亡くなられた利用者が大事にされていた大きいパンダのぬいぐるみを飾っておられた。庭には菜園を作っておられ、夏にはトマトや玉ねぎ等も作られたようだ。居間のテーブルは複数に分かれており、利用者の関係性等も踏まえて席順を決めておられる。洗面台は、車いすの方は使いにくさはあるが、ガーグルベースを使ってうがいをしてもらったり、洗面台に車いすを横付けして利用されている。昼食後には、玄関から出てプランターの花がらを取ってくださる利用者がみられた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) スタッフの目の届きにくいところにソファを設置し、見られているという意識なく過ごしくつろぐことができる</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者が落ち着いて暮らせるように家具はなるべく新しい物ではなく馴染みがあり使い慣れたものを持ってきてもらい使用している 仏壇を部屋においている利用者もいる</p> <p>(外部評価) 居室の窓からは、収穫間近の稲穂の田園風景や、隣接の公園が見え、人や車が行き来するの見える。お好きな歌手の写真や新聞の切り抜きを壁に貼っておられたり、仏壇にお水や線香を供えたり、神棚に手を合わせる方もいる。小さな冷蔵庫を置いて、お好きな時にお茶やお菓子食べる方もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 自分でできる事はしてもらい、トイレの場所を大きく表示したり汚物流しをカーテンで隠しトイレと間違わないようにしたりしている</p>	